

朝の礼拝

聖書 箴言 1章 7節 (旧約聖書990頁)

主を畏れることは知恵の初め。  
無知な者は知恵をも諭しをも侮る。

### 共に生きるため

「知恵の初め」とありました。知恵は意識されています。英語では“knowledge”「知識」、動詞は“know”「知る」です。原語では「ヤーダー」と言います。それは表面的に知っているではなく、「知り合う、共に生きる」という深い関わりの意味があります。

また「初め」は最初という時間のことでなく、内容として「最も肝心なこと」という意味です。ですから知恵の初めとは「共に生きるために最も大切なこと」という意味になります。それは冒頭にあるように「主を畏れること」です。

「主」は神様や天を指します。そして「畏れ」は訓読みで「畏(かしこ)み」と読みます。祝詞(のりと)の始まりに「かしこみかしこみ」と唱えますが、近づき難い神様に祈願することを指します。共に生きるために最も大切なことは「祈り」だと言っているのです。

現代の私たちは多くのフェイクニュースやデータのアルゴリズムにさらされています。表面的な知識や情報に振り回されています。でも本当に大切なことは互いに祈りを交わし、思いやる具体的な行動ではないでしょうか。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、わたしたちの毎日はSNSなどによっておびただしい数の情報やデータに囲まれています。どうか互いを思いやり、愛し合うために用いることができますように。特に昨日トルコとシリア北部での大地震を知りました。どうか被災された方々、救助を待つ方々、寒さと飢えにあって感染症の危険のある方々、救助に向かっている方々を守り、わたしたちもあなたのみこころに適う道を歩めますようにお導きください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン